

2020 - 2021

Outline of
Japan Arts
Council

 日本芸術文化振興会



ごあいさつ

独立行政法人日本芸術文化振興会
理事長 **河村潤子**



独立行政法人日本芸術文化振興会は、昭和41年に我が国古来の伝統芸能の保存及び振興を目的とする特殊法人国立劇場として設立されて以来、半世紀を超えてその役割を遂行してまいりました。

また、平成元年及び平成2年の法律改正により、法人の目的に、現代舞台芸術の振興及び普及並びに文化芸術活動に対する援助の二つが加わり、当振興会は我が国における芸術文化振興の中核的拠点としての使命を帯びることとなりました。平成15年には独立行政法人に移行し、5年毎に設定される中期目標、中期計画に基づき事業を行っております。平成30年度からは改正後の文化芸術基本法を受けた新たな目標、計画の期間になっています。

さらに、平成31年4月には日本博事務局を担うことになりました。「日本博」は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその前後の期間に実施される文化芸術の祭典です。「日本博」では、「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、様々な展覧会、舞台公演、文化祭等を日本全国で展開してまいります。

令和2年2月から、文化芸術活動には、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく及んでおります。文化芸術活動の公的支援機関として、直ちに助成に関する運用の弾力化等の対応に当たると共に、国の補正予算を受け、文化芸術関係者の活動継続など多角的な援助に寄与すべく力を尽くしてまいります。一方、国立の各劇場は、2月末から6月まで、主催事業のほとんどを余儀なく中止いたしました。その後の公演については、準備等が行えず中止せざるを得ないものもございしますが、伝統芸能の継承と現代舞台芸術の振興という使命を継続するため、感染症拡大防止への対応を万全に行った上で、様々な工夫を講じ、細心の注意を払って段階的な企画・実施に当たっております。

また、多種の分野にわたる「おうちでカンゲキ!! 伝統芸能ホームシアター」の配信など、新たな試みにも挑戦しながら、お客様とのつながりを一層大切にしていきたいと思います。

当振興会の設立以来、経験したことのない厳しい状況の中ですが、伝統芸能の保存と振興、そして芸術文化の振興と普及を通じて、社会に貢献し続けることができるよう、取り組んでいく所存でございます。引き続きご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

この冊子は、当振興会の事業概要を広く皆様に知っていただくために作成いたしました。当振興会の諸事業に対するご理解の一助となれば幸甚に存じます。

(令和2年8月)

「白地七宝繫唐松檜扇模様唐織」より

目次

1	目的	1
2	沿革	1
3	事業	2
4	組織	15
5	予算	15
6	施設	16

1 目的

独立行政法人日本芸術文化振興会は、我が国古来の伝統芸能の公開、伝承者の養成及び調査研究並びに我が国における現代舞台芸術の公演、実演家の研修及び調査研究を行い、その保存、振興又は普及を図るとともに、日本全国の文化芸術活動に対する援助を行い、芸術その他の文化の向上に寄与することを目的としています。

2 沿革

独立行政法人日本芸術文化振興会の前身である特殊法人国立劇場は、伝統芸能の保存及び振興を図ることを目的として、昭和41年7月、国立劇場法に基づき設立されました。

昭和41年(1966)	6月27日	国立劇場法公布
	7月1日	特殊法人国立劇場設立
	11月1日	国立劇場開場(東京都千代田区隼町)
昭和54年(1979)	3月22日	国立演芸資料館(国立演芸場)開場(東京都千代田区隼町)
昭和58年(1983)	9月15日	国立能楽堂開場(東京都渋谷区千駄ヶ谷)
昭和59年(1984)	3月20日	国立文楽劇場開場(大阪府大阪市中央区日本橋)
平成2年(1990)	3月30日	芸術文化振興基金設置、特殊法人日本芸術文化振興会に名称変更
平成9年(1997)	10月10日	新国立劇場開場(東京都渋谷区本町)
	11月1日	新国立劇場舞台美術センター資料館開館(千葉県銚子市豊里台)
平成14年(2002)	12月13日	独立行政法人日本芸術文化振興会法公布
平成15年(2003)	3月19日	伝統芸能情報館開館(国立劇場敷地内)
	10月1日	独立行政法人に組織形態を移行
平成16年(2004)	1月18日	国立劇場おきなわ開場(沖縄県浦添市勢理客)
平成31年(2019)	4月1日	日本博事務局設置

3 事業

独立行政法人日本芸術文化振興会では、次の事業を行っています。

- 1 文化芸術活動に対する援助
- 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演
- 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修
- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- 5 劇場施設の貸与
- 6 日本博の運営・実施

このうち、国立劇場おきなわに係る業務については公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に、新国立劇場に係る業務については公益財団法人新国立劇場運営財団に委託しています。

1 文化芸術活動に対する援助

すべての国民が文化芸術に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、平成2年3月に芸術文化振興基金が創設され、平成2年度から助成事業を開始しました。また、文化庁の助成事業(文化芸術振興費補助金)のうち、芸術団体の公演活動等を対象とするもの及び映画製作に関するもの(平成21年度～)、劇場・音楽堂等を対象とするもの(平成30年度～)、国際的な実演芸術の公演活動に関するもの(平成31年度～)が、当振興会に移管されました。当振興会では、これら補助金による助成と芸術文化振興基金による助成とを一体的に運用しています。

芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成金の交付対象活動は、毎年度公募を行い、審査の上で決定します。助成金の交付を適正に行うため、理事長の諮問機関として芸術文化振興基金運営委員会を設置しています。同運営委員会には、舞台芸術・美術等、映像芸術、地域文化活動、文化財の4つの部会を置き、更にその下に14の専門委員会を設置して、各分野の実情や特性等を踏まえた審査を行っています。

また、文化芸術への支援策をより有効に機能させるため、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、調査研究の各分野の専門家であるプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを配置し、その専門的な知見を生かして、専門委員会等における審査、公演等調査等を基にした評価及び調査研究等の充実を図るとともに、芸術団体等への助言や意見交換等を行っています。

ほかにも、文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、文化芸術活動へ助成を行う民間助成団体に関する情報を収集し、データベース化やホームページを通じた情報提供等を行っています。

(1) 芸術文化振興基金による助成金の交付

芸術文化振興基金は、政府からの出資金 541 億円及び民間からの出せん金 153 億円の合計 694 億円を原資として、その運用益により助成を行っています。対象となる活動は、以下の3つです。

- 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動
- 地域の文化振興を目的として行う活動
- 文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

(2) 文化芸術振興費補助金による助成金の交付

文化庁から文化芸術振興費補助金の交付を受け、それを財源として以下の活動に対し、助成を行っています。

- 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動
- 国際的な実演芸術の公演活動
- 劇場・音楽堂等の機能強化等に資する活動
- 優れた日本映画の製作活動

- ① 事業:舞台芸術等の創造普及活動
団体:CHAIROIPLIN
活動:踊る戯曲IV『BALLO-ロミオとジュリエット-』
写真:踊る戯曲IV『BALLO-ロミオとジュリエット-』
- ② 事業:舞台芸術創造活動活性化事業
団体:株式会社オフィス ワン・ツー
活動:ワンツーワークス#23『消滅寸前(あるいは逃げ出すネズミ)』
写真:『絆の里』の委員が口論する中、座長の楠公は不穏な音を耳にする。
写真撮影:黒木朋子
- ③ 事業:国内映画祭等の活動
団体:しまね映画祭実行委員会
活動:第26回しまね映画祭
写真:映画製作ワークショップ「しまね映画塾」撮影風景
- ④ 事業:地域の文化振興等の活動
団体:一般社団法人伝統技術伝承者協会
活動:装演修理に必要な道具・原材料の製作技術に関する伝承者養成のための記録映像の製作(表装建具製作)
写真:組子下地製作 組み上げ
- ⑤ 事業:映画製作への支援
団体:株式会社祭
活動:フジコ・ヘミングの時間
写真:フジコ・ヘミングの時間
※『平成29年度芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金助成事業事例集』より転載



2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

国立劇場、国立演芸資料館(国立演芸場)、国立能楽堂、国立文楽劇場及び国立劇場おきなわの各劇場において、歌舞伎、文楽、舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、大衆芸能、能楽及び組踊等沖縄伝統芸能など多岐にわたる伝統芸能の公開を行っています。

公開については、周到な調査と準備を重ね、多種多様な演出や技法を尊重し、伝承のままの姿で実施するよう努めています。歌舞伎では、物語の展開を理解しやすいよう筋を通した「通し狂言」での上演を旨とし、文楽では「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等を上演しています。その他のジャンルの芸能についても、様々な流派を一堂に集めての上演、一つのテーマに沿った複数の演目の上演等、国立劇場ならではの公演を積極的に行っています。さらに、上演の途絶えている優れた演目等の復活や伝統的な演出や技法をより発展させる試みとしての新作の上演にも取り組んでいます。

伝統芸能の鑑賞者を増やすため、様々な工夫も行っています。例えば、能楽では、能一番、狂言一番による番組を原則とし、初めての人にも鑑賞しやすい形態をとっています。また、伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、青少年や社会人等が低廉な料金で伝統芸能の魅力に触れることができる鑑賞教室を、歌舞伎、文楽、能楽及び組踊等沖縄伝統芸能の各分野で実施しています。加えて鑑賞教室では、外国人向けに鑑賞機会を提供し、国際文化交流の推進に寄与するため、英語による解説と親しみやすい演目により構成する Discover 公演を各分野で実施しています。

さらに、各地の文化施設等における伝統芸能の鑑賞機会の充実にも努めています。

- ① 平成31年1月公演
歌舞伎「姫路城音菊礎石」
中村時蔵(生田兵庫之助)、尾上菊五郎(赤松彦次郎教康)、寺嶋和史、現 尾上丑之助(桃井国松)、尾上右近(尾上)左から
- ② 令和元年6月公演
DiscoverKABUKI「神霊矢口渡」
中村老太郎(娘お舟)、中村扇治郎(渡し守頼兵衛)左から



- ① 平成31年4月公演
文楽「仮名手本忠臣蔵」
吉田和生(塩谷判官)、桐竹勘十郎(高師直)左から
- ② 令和元年5月公演
能「絵馬」
観世清和(後シテ天照大神)、坂口貴信(後ツレ手力雄命)手前から
- ③ 平成30年12月公演
大衆芸能 落語「芝浜」
三笑亭夢太郎
- ④ 平成29年6月公演
組踊「執心鐘入」
新垣悟(鬼女)
- ⑤ 令和元年6月公演
歌舞伎鑑賞教室
「解説 歌舞伎のみかた」
中村虎之介(解説)、中村いてう(平賀源内)左から



(2) 現代舞台芸術の公演

新国立劇場では、主催公演として国際的に比肩しうる高い水準のオペラ、舞踊(バレエ、現代舞踊)、演劇等を自主制作により上演し、各年代、各層にわたる数多くの人々が広く現代舞台芸術に親しむ機会を提供しています。演目の決定及び制作は、オペラ、舞踊、演劇の各部門の芸術監督の責任と判断により行っています。

また、青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、低廉な料金で青少年や親子を対象とした公演を行っているほか、全国各地の劇場等で芸術鑑賞の機会を広く提供しています。



① 平成31年2月公演
オペラ「紫苑物語」
小山陽二郎(父)、高田智宏(宗頼)、
村上敏明(藤内)、清水華澄(うつろ
姫)、新国立劇場合唱団 ほか
撮影:寺司正彦
② 令和元年6月公演
バレエ「アラジン」小野絢子(プリンセ
ス)、福岡雄大(アラジン)
撮影:鹿摩隆司
③ 令和元年7月公演
演劇「骨と十字架」
神農直隆、近藤芳正
撮影:宮川舞子



3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能は、無形の技であり、人から人へと伝承されるものです。そのため、当振興会では、国立劇場設立当初から、伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、伝承者を安定的に確保するため、伝統芸能伝承者の養成事業に取り組んできました。

歌舞伎については歌舞伎俳優及び歌舞伎音楽(竹本、鳴物、長唄)の4課程、文楽については太夫、三味線及び人形の3課程、大衆芸能については寄席囃子及び太神楽の2課程、能楽についてはワキ方、囃子方及び狂言方の3課程、組踊については立方及び地方の2課程を設け、各分野の実情を踏まえて伝承者を養成しています。

養成研修は、伝統芸能の実演家が講師として実技指導するほか、講義や発表会等のカリキュラムを組み、2～6年間をかけて行われます。研修修了者は、舞台出演の経験を重ね、伝統芸能の保存及び振興に大きな役割を果たしています。

歌舞伎



① 歌舞伎俳優研修
② 歌舞伎音楽(竹本)研修
③ 歌舞伎音楽(鳴物)研修
④ 歌舞伎音楽(長唄)研修



- ① 寄席囃子研修
- ② 太神楽研修
- ③ 能楽狂言方研修
- ④ 能楽ワキ方研修
- ⑤ 能楽研修生によるシテ謡研修
- ⑥ 文楽太夫研修
- ⑦ 文楽三味線研修
- ⑧ 文楽人形研修
- ⑨ 組踊立方研修
- ⑩ 組踊歌三線研修

9ページ

- ① 令和元年8月公演
国立文楽劇場開場三十五周年記念
国立文楽劇場文楽既成者研修発表
会 若手素浄瑠璃の会
- ② 平成30年10月公演
第五期組踊研修生第3回発表会
「孝行の巻」

大衆芸能



能楽



文楽



組踊



成果の発表



(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

現代舞台芸術の人材育成についても、高い技術と豊かな芸術性を備えたオペラ歌手、バレエダンサー、俳優等次代を担う実演家の研修事業を行っています。これらの実演家養成のため、国内外から招聘する経験豊富な講師による指導のほか、知識や教養を身につけるための講義等を行う多彩なカリキュラムを組み、プロフェッショナルとして通用する人材を輩出しています。

オペラ



- ① 令和元年6月公演
オペラ研究所試演会
「イオランタ」
撮影:平田真璃
- ② 平成31年3月公演
バレエ研究所公演
「エトワールへの道程2019～新国立劇場バレエ研究所の成果～」
撮影:瀬戸秀美
- ③ 平成31年2月公演
演劇研究所修了公演
「るつぽ」
撮影:小林由恵

バレエ



演劇



4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開等の充実に資するとともにその理解の促進を図るため、調査研究及び資料の収集を行い、その成果を研究者や一般に提供しています。

公演や展示の実施に当たっては、上演資料集や展示図録等を作成しています。調査研究においては、日本各地の演劇興行等に関する記録や伝統芸能に関する古文献等について調査し、復刻及び刊行も行っています。また、主催公演を中心に演技・演出等の記録を録画、録音、写真等により作成し、適切に保存しています。それらの成果は、各劇場及び伝統芸能情報館に設置した展示、視聴又は図書閲覧のための施設等で公開しています。また、公演記録鑑賞会、公開講座等による伝統芸能の普及活動も積極的に行っています。このほかに、文化デジタルライブラリーではインターネットを通じて伝統芸能の教育用コンテンツ（舞台芸術教材）、主催公演の公演記録情報、錦絵等の収蔵資料の画像等を公開しています。

(文化デジタルライブラリー <https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>)

- ① 情報展示室(伝統芸能情報館1F)
- ② 図書閲覧室(伝統芸能情報館2F)
- ③ 視聴室(国立劇場3F)
- ④ 錦絵「大当狂言内 幡随長兵衛」
- ⑤ 文化デジタルライブラリー

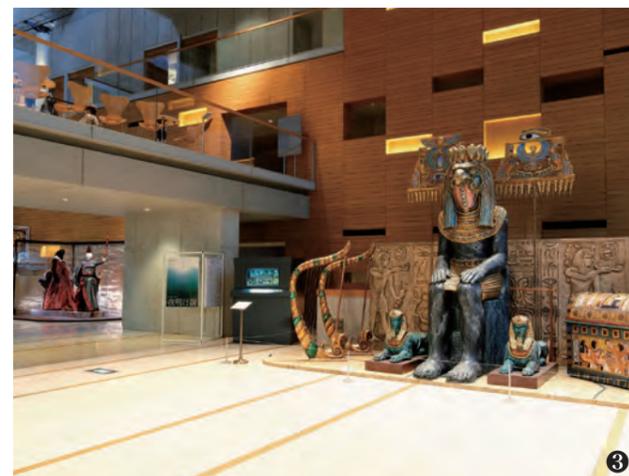


- ① 情報センター閲覧室(新国立劇場5F)
- ② 情報センタービデオシアター(新国立劇場5F)
- ③ 初台アート・ロフト(新国立劇場内)
- ④ 舞台美術センター資料展示室(千葉県銚子市)

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

我が国及び世界における現代舞台芸術の公演や作品について調査を行い、関係資料を主催公演の充実等に活用するとともに、現代舞台芸術の理解の促進を図るため、一般の利用に供しています。

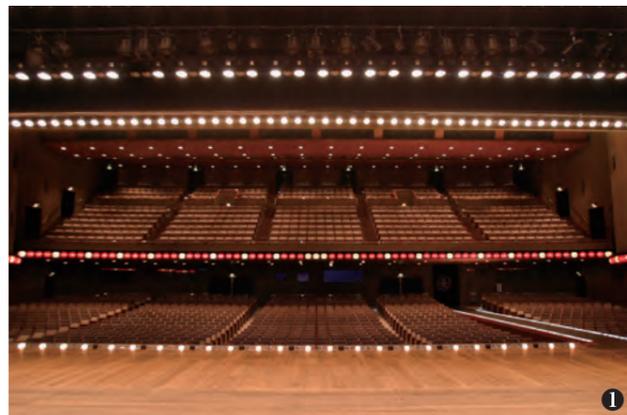
新国立劇場内に設けられた情報センターでは、主催公演のプログラムや参考図書を開覧できるほか、主催公演等の映像資料を視聴することができます。劇場内オープンスペースにおいても舞台装置模型や衣裳等の展示を行っています。また、千葉県銚子市の舞台美術センターでは、舞台装置や衣裳等の保管及び管理を行い、併せて所蔵資料の展示や公演記録映像の上映会を行っています。



5 劇場施設の貸与

主催公演等で使用する期間を除いた日については、劇場施設を伝統芸能の保存及び振興又は現代舞台芸術の振興及び普及を目的とする事業等の利用に供しています。その際、舞台技術職員等が技術協力を行うほか、舞台備品の貸出や受付・案内スタッフの手配等を行っています。

- ① 国立劇場大劇場 舞台から見た客席
- ② 天皇后陛下御在位三十年記念式典 (平成31年2月24日 国立劇場大劇場) 出典：首相官邸ホームページ
- ③ 国立劇場大劇場 廻り舞台
- ④ 国立劇場大劇場 楽屋
- ⑤ 国立劇場大劇場 舞台作業
- ⑥ 国立劇場大劇場 舞台操作盤



6 日本博の運営・実施

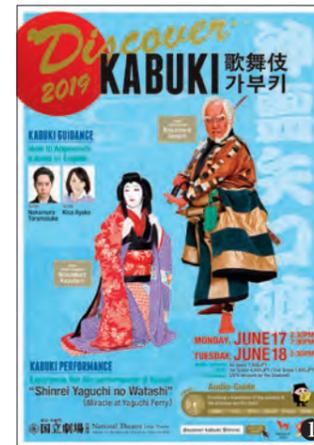
「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきました。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式において、人間が自然に対して共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしています。

「日本博」は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「縄文から現代」の「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を、「日本人と自然」という総合テーマの下、四季折々・年間を通じて全国で展開しつつ、日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する事業です。縄文時代から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台芸術等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等と、国内外にわたり、訪日外国人等に対して戦略的なプロモーションに関する企画・実施等を行うため、平成31年4月より日本芸術文化振興会に日本博事務局が設置されました。

(1) 主催・共催型事業の実施

「日本博」の中核となる「総合大型プロジェクト」を、国、文化施設、民間団体等と共同で企画・実施します。あわせて、「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大規模な展示・公演等を「分野別大規模プロジェクト」として、全国的な活動を行う団体等と実施します。



- ① Discover KABUKI
—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—
(主催：日本芸術文化振興会等/開催地：東京都)
- ② 「外国人のための歌舞伎ワークショップ」女方の演技体験
- ③ 日本文化体験「日本のよろい!」
(主催：日本芸術文化振興会、東京国立博物館等/開催地：東京)
- ④ よろい着用体験の様子

(2) 公募助成型事業の実施

各地域や団体の特色のある企画を公募し、事業費を一部助成します。



(3) 参画プロジェクトの認証

各地域や団体の特色ある企画を公募し、「参画プロジェクト」として認証します。



①「みんなの花火～障がい者も健常者も一緒に楽しめる花火～」
(主催:一般社団法人日本花火推進協会/開催地:北海道、秋田県、東京都、愛知県、福島県、他1県)

②火焔型土器と縄文文化の魅力発信事業
(主催:信濃川火焔街道連携協議会/開催地:新潟県)

③東京シマイコレクション2020プレ～東日本大震災から復活したシマイ～
(主催:日本芸術文化振興会等/開催地:東京都)

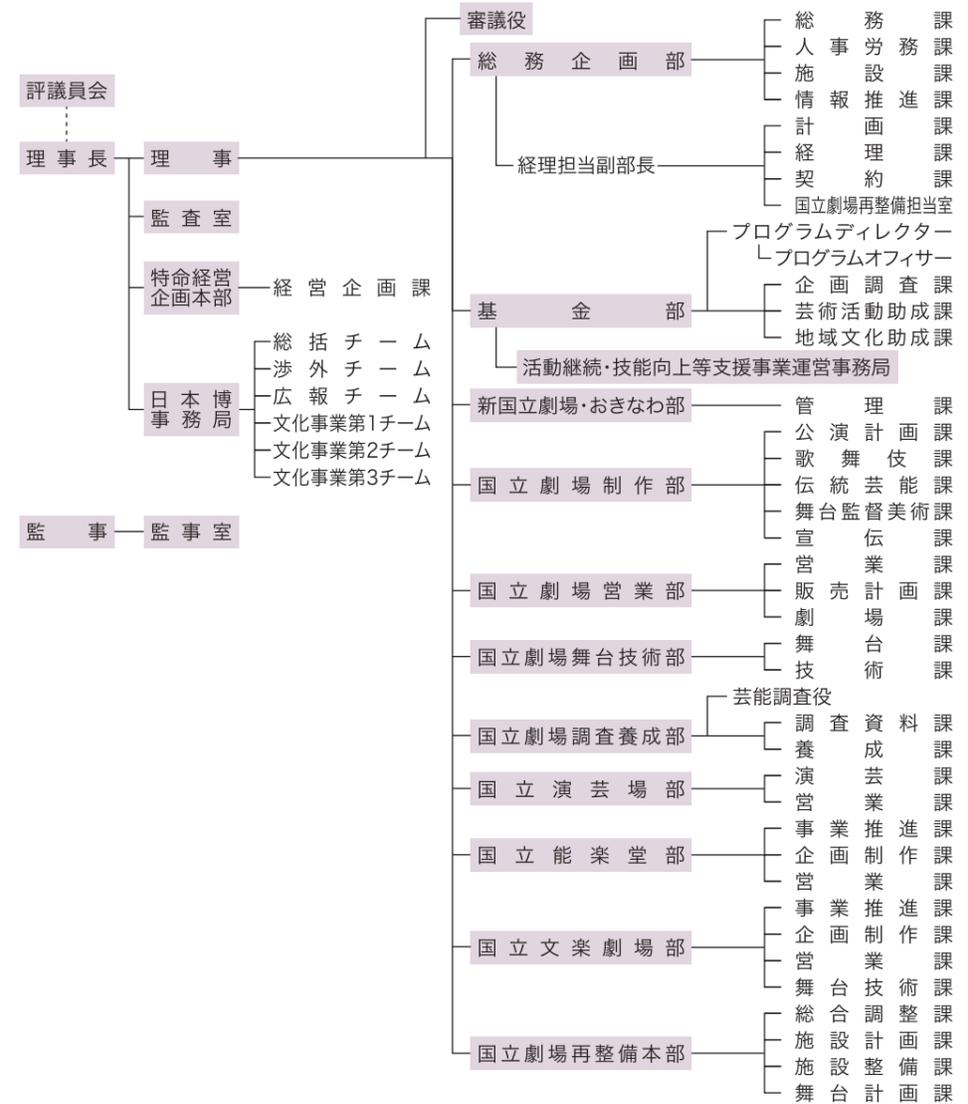
提供:福田十二神楽保存会

④六本木アートナイト2019
©六本木アートナイト実行委員会

(4) 「日本博」の国内外に向けたプロモーション

「日本博」として実施するプロジェクトの戦略的なプロモーションを企画し、体験型のプログラムを含めた文化コンテンツを、効果的なオンラインメディア等の様々な広報媒体により国内外に発信します。

4 組織



5 予算

令和2年度予算計画額	249億3千万円
基金区分	83億9千万円
国立劇場区分	124億2千万円
新国立劇場区分	41億2千万円

(収入の内訳)	
運営費交付金	106億0千万円
国庫補助金	73億6千万円
うち施設整備費補助金	0円
うち文化芸術振興費補助金	67億6千万円
うち文化資源活用事業費補助金	6億0千万円
自己収入	69億8千万円
うち芸術文化振興基金運用収入等	13億4千万円
うち公演事業収入等	56億4千万円

※単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

6 施設

国立劇場・国立演芸資料館(国立演芸場)・伝統芸能情報館



国立劇場



国立演芸資料館(国立演芸場)



伝統芸能情報館

■国立劇場

- 大劇場 総席数：1,610席
- 小劇場 総席数：590席
- 視聴室 視聴覚資料の閲覧

■国立演芸資料館(国立演芸場)

- 演芸場 総席数：300席
- 演芸資料展示室 演芸資料の展示

■伝統芸能情報館

- 情報展示室(1F) 伝統芸能情報等の検索・閲覧(文化デジタルライブラリー)、博物展示等
- 図書閲覧室(2F) 図書の閲覧、伝統芸能情報等の検索・閲覧(文化デジタルライブラリー)
- レクチャー室(3F) 公演記録鑑賞会、伝統芸能講座等

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号
TEL.(03)3265-7411(代表) FAX.(03)3265-7402



〈交通〉
地下鉄／東京メトロ半蔵門線(半蔵門駅)1番・6番出口徒歩5分
東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線(永田町駅)4番出口徒歩8分

国立能楽堂



- 能舞台 総席数：627席
- 研修能舞台 収容人員：100名程度
- 資料展示室 能楽資料の展示
- 大講義室 公開講座
- 図書閲覧室 図書の閲覧、視聴覚資料の閲覧

伝統芸能情報等の検索・閲覧(文化デジタルライブラリー)



〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目18番1号
TEL.(03)3423-1331(代表) FAX.(03)3423-1330

〈交通〉
J R／中央・総武線(千駄ヶ谷駅)徒歩5分
地下鉄／都営大江戸線(国立競技場駅)A4番出口徒歩5分
東京メトロ副都心線(北参道駅)1番・2番出口徒歩7分
都バス／早81・黒77(千駄ヶ谷駅前)徒歩5分
ハチバス／神宮の杜ルート(国立能楽堂)徒歩1分

国立文楽劇場



- 文楽劇場 総席数：753席
- 小ホール 総席数：159席
- 資料展示室 芸能資料の展示
- 図書閲覧室 図書の閲覧、視聴覚資料の閲覧、伝統芸能情報等の検索・閲覧(文化デジタルライブラリー)



〒542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
TEL.(06)6212-2531(代表) FAX.(06)6212-1202

〈交通〉
地下鉄／Osaka Metro堺筋線・千日前線(日本橋駅)
近鉄奈良線(近鉄日本橋駅)7号出口より東へ徒歩1分

国立劇場おきなわ



- 大劇場 総席数：632席
- 小劇場 総席数：255席
- 資料展示室 組踊等沖縄伝統芸能資料の展示
- レファレンスルーム 図書の閲覧、視聴覚資料の閲覧

〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客4丁目14番1号
TEL.(098)871-3311(代表) FAX.(098)871-3321



〈交通〉
バス／(国立劇場おきなわ(結の街))徒歩1分
バス／(勢理客)徒歩10分
タクシー／那覇空港から約20分

新国立劇場・舞台美術センター



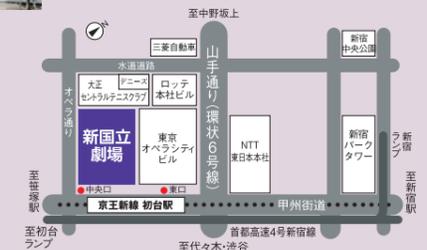
- オペラ劇場 総席数：1,814席
- 中劇場 総席数：1,038席
- 小劇場 総席数：468席
- 情報センター 図書等の閲覧、視聴覚資料の閲覧、現代舞台芸術情報の検索

〒151-0071 東京都渋谷区本町1丁目1番1号
TEL.(03)5351-3011(代表) FAX.(03)5352-5717

〈交通〉
地下鉄／京王新線(都営新宿線乗り入れ)(初台駅)中央口直結



- 舞台美術センター
 - 資料館 舞台美術等の展示、視聴覚資料の閲覧
 - 美術工作棟
 - 保管棟A、保管棟B、保管棟C、保管棟D
 - 衣裳保管棟
- 〒288-0874 千葉県銚子市豊里台1丁目1044番
TEL.(0479)30-1048





独立行政法人 日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号
TEL.03-3265-7411(代表) FAX.03-3265-7402

国立劇場 (大劇場・小劇場)

国立演芸資料館 (国立演芸場)

伝統芸能情報館

芸術文化振興基金

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号
TEL.03-3265-7411(代表) FAX.03-3265-7402

国立能楽堂

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目18番1号
TEL.03-3423-1331(代表)

国立文楽劇場 (文楽劇場・小ホール)

〒542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
TEL.06-6212-2531(代表)

国立劇場おきなわ (大劇場・小劇場)

〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客4丁目14番1号
TEL.098-871-3311(代表)

新国立劇場 (オペラ劇場・中劇場・小劇場)

〒151-0071 東京都渋谷区本町1丁目1番1号
TEL.03-5351-3011(代表)